

# 千年の森便り No.121

2013.10.24

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.digi2.jp/>

事務局長 伊藤道男

[sennennomori@hotmail.co.jp](mailto:sennennomori@hotmail.co.jp)

## 活動の記録

10月20日(日) 雨 秋のキノコ観察会 (千葉県自然観察指導員協議会、千葉県緑化推進委員会共催行事)

前日の予報を信じて「小雨決行」したところ、本降りの雨、多数の参加キャンセルが相次ぐなか、キノコ愛好者 35 名が集まり、雨のキノコ観察会は大盛況。参加会員は新井通子、伊藤、鶴沢、坂本、栗山、小又、福島、降幡、細谷、中田夫妻+子供達、根本、松田、真鍋、村野、山口、山本。更に募集に応じてご参加の、上田、大原、森、福岡さんと豪君、伊豆夫妻、大鷲夫妻、小山夫妻、牧野夫妻。

朝は県民の森入り口の集会所に仮設した会場で雨宿りを兼ね講師陣によるキノコ講座、昼食を済まし雨の豊英島に入林しキノコの観察・採集、沢山の採集したキノコを仮設会場に持ち帰り、同定後キノコの解説。講師は松田・坂本・村野会員に、飛び入りで千葉菌のベテランも加わり充実の講師陣、お陰で楽しいキノコの観察・学習ができました。講師の皆さま有難うございました。悪天候の中でキノコ観察会ができたのは、本降りの雨にもかかわらず参加し、ご協力くださった多くの方々のお陰です。有難うございました。(真鍋)

○キノコ講座；松田講師は資料「キノコを探そう」に従ってキノコ発生の自然条件、菌根共生菌と落葉分解菌、木材腐朽菌、毒キノコ、キノコの料理など名講釈。毒・食や食べ方のお話にはベテランの体験やコメントも加わり盛り上りました。続いて県内キノコの放射能に関する情報、坂本講師による「ウラボニホテイシメジ(食)とクサウラボニタケ(毒)の見分け方」解説、ベテランの体験や意見も披露され賑やかな講座となりました。



キノコ講釈を聴きながら雨宿り

○キノコの観察・採集；昼過ぎ、雨の豊英島に全員入林、簡単な安全注意の後、キノコツアー開始、松田・村野ガイドの本隊はホテイ岬一巡コース、坂本ガイドコースは巨木林一巡コース、福島ガイドの健脚組は禁断の岬バカマツタケコース、ベテラン組はキノコ探索銘々コースに分かれ、台風 26 号による倒木をよけ、1 時間余り、雨の中のキノコ狩りを楽しみ、かごや袋いっぱいのキノコを抱えて仮設会場に戻りました。



豊英島は本降りの雨



雨の豊英島キノコ観察に 35 人全員入林



傘を片手にキノコ観察

○キノコの同定と解説：集まった沢山のキノコをより分け、分類し、講師陣により同定、種名表示、銘々皿に並べ、同定されたキノコについて講師に解説頂きました。沢山のキノコのより分け-分類には多くの参加者が協力し、種名確定の難しいキノコには子供達も大人達も真剣に図鑑と照合していました。朝の講座で学習した「ウラボニホテイシメジとクサウラボニタケの見分け方」は沢山集まった両種の見本を前に坂本講師の解説がありましたが、現物を前にすると判断のつかないものも沢山あって、ベテランの間でも見解が分かれる場面があり、両者の見分けがいかにかに難しいかが改めて認識されたと思います。(以上真鍋)



キノコの山を大勢で分別・分類し



難しいキノコは図鑑と照合



身振り手振りの名講師

### ○10月20日採集キノコ目録

|         |  |
|---------|--|
| ハラタケ類   | <p>ヒラタケ科 ウスヒラタケ</p> <p>ヌメリガサ科 ヒメサクラシメジ</p> <p>キシメジ科 ダイダイガサ、ハエトリシメジ、ツエタケ、チシオタケ、バカマツタケ、ミネシメジ</p> <p>テングタケ科 ドクツルタケ、タマゴテングタケ、コテングタケモドキ、シロオニタケ、テングタケ SP、カバイロツルタケ</p> <p>ヒトヨタケ科 ヒトヨタケ SP</p> <p>モエギタケ科 ニガクリタケ</p> <p>イッポンシメジ科 クサウラボニタケ、ウラボニホテイシメジ</p> <p>フウセンタケ科 オニフウセンタケ、キヒダフウセンタケ、キショウゲンジ、ムラサキフウセンタケ SP,</p> <p>イグチ科 アカヤマドリ</p> <p>ベニタケ科 クロハツ、トビチャチタケ、ウコンハツ、キチチタケ、</p> |
| ヒダナシタケ類 | <p>ラッパタケ科 ウスタケ</p> <p>ホウキタケ科 ホウキタケ SP 多数</p> <p>イボタケ科 コウタケ、マツシシタケ、ケロウジ、クロカワ、</p> <p>ニンギョウタケモドキ科 アオロウジ、コウモリタケ</p> <p>タコウキン科 ウチワタケ、 ツヤウチワタケ</p>  |
| 腹菌類     | <p>ヒメツチグリ科 フクロツチガキ</p> <p>ホコリタケ科 ノウタケ</p>  |
| キクラゲ類   | <p>シロキクラゲ科 ハナビラニカワタケ</p>   |
| 子のう菌類   | <p>ピロネマキン科 キンチャワソウタケ</p>   |
| その他     | <p>同定出来なかった種、数種</p>  |

目録の各分類群、科は「豊英島の自然」キノコ目録に準じて、今関・本郷（1987-1989）に従った。（村野）

○植物観察 広場近くでキヨスミギク（アキバギク）とコウヤボウキの開花が、また保護網内のツルリンドウは下部に花後の姿が見られました。（新井通子）

常連になったトン吉こと座間の上田さんは大雨の中、電車とバスとタクシーを乗り継ぎ往復 6 時間かけて来て、植物班と一緒に豊英島のクロヤツシロランの花を探しましたが、今年も残念ながら見つかりません。（真鍋）

### 秋のきのこ観察会

松田義弘

今年の秋のキノコの観察会は、あいにくの荒天にもかかわらず、35名に及ぶ熱心な（狂信的な）キノコマニアの方々が参加されました。

9時30分の集合時間には、雨は本降りとなってしまい、午後の回復を期待して、午前中は、松田講師作成のキノコについての資料「キノコを探そう」のレクチャーを受け、早めの昼食を取り、12時には勇み、雨中千年の森に向かいました。然しながら、天気は一向に回復せず、雨合羽で完全武装をして大雨の中で、大急ぎで標本採取をしました。標本は、清和県民の森の集会所に持ちかえり、分類、同定をして、松田、坂本、野村講師によって解説を受けました。

今年の千年の森のキノコは、天候不順のせいか、同定出来たもの、時間の関係で同定出来なかったもの数種を含め60種余（昨年同時期は80種余）とやや少なめでした。定番のサクラシメジは観察出来ず、クサウラベニタケもごく少なく（喜ばしいことですが）、ホウキタケの仲間も少量であったこと、また毎年皆さんの喜ぶバカマツタケやコウタケもごく少量の収穫でありました。それにしても、こんな狭いエリアに、どうしてこんなに沢山のキノコが発生するのか、毎度驚きを隠せません。いっそ「豊英のひよっこりひょうたん島」と改名しては……。

### お知らせ

○11月定例活動日：11月17日(日) 9時30分木のふるさと館駐車場集合、森林整備（伐採）、食害（植生）調査、植物調査、野鳥調査等計画しています。

11月に実施する森林整備の方針と具体的内容については、事前に概要を提案し、会員間でご相談します。

### 訃報

○「千年の森」初代代表として会の設立と発展に貢献された坂本彌会員は、去る10月14日急逝されました。享年75歳。謹んでご冥福をお祈りします。

### 追悼のこトバ

代表 真鍋昌義

坂本彌元代表は10年前の2003年、有志に呼び掛けて、「ちば千年の森をつくる会」を設立、千葉県庁に何度も足を運び協定書等の協議と締結に尽力、8年間の代表在任中、現場では伐採など森の作業に不慣れな会員達に実地指導しながら率先垂範、実戦だけでなく「文武両道」の必要性を力説し、森林整備の基本方針や目標林型の設定、各管理区域の管理方針など会員の合意形成に力を尽くし、「千年の森」づくりの基礎を築かれました。

故人は千葉県のみならず、日本の森の現状に危機感をもち、ボランティア団体に出来ることの実践に取り組み、「千年の森」以外に「ちば森づくりの会」理事長や「ちば里山センター」初代代表をはじめ、森づくりにかかわる多くの団体でリーダーとして活躍されました。

告別式で喪主ご子息のご挨拶に「父は寡黙な人で退職後外で何をしているのか、家族は何も知らずにいましたが、葬儀に大勢の友人に参列頂き、退職後も父は多くの友人と幸せに過ごしていたことがわかりました」とありました。森づくりをライフワークとし、業半ばで急逝されましたが、そのご遺志は教えを受けた後輩たちにより着実に引き継がれるものと確信します。心からご冥福をお祈りします。